

# キャリアパス講演～事務局だより～

9月15日(木)母校の創造工学の授業で、1年生対象のキャリアパス講演が行われました。

昨年はオンラインで、関東支部と西日本支部から推薦していただいた卒業生が講演しました。

今年の講師は大講義室で直接学生へ向けての講演となります。

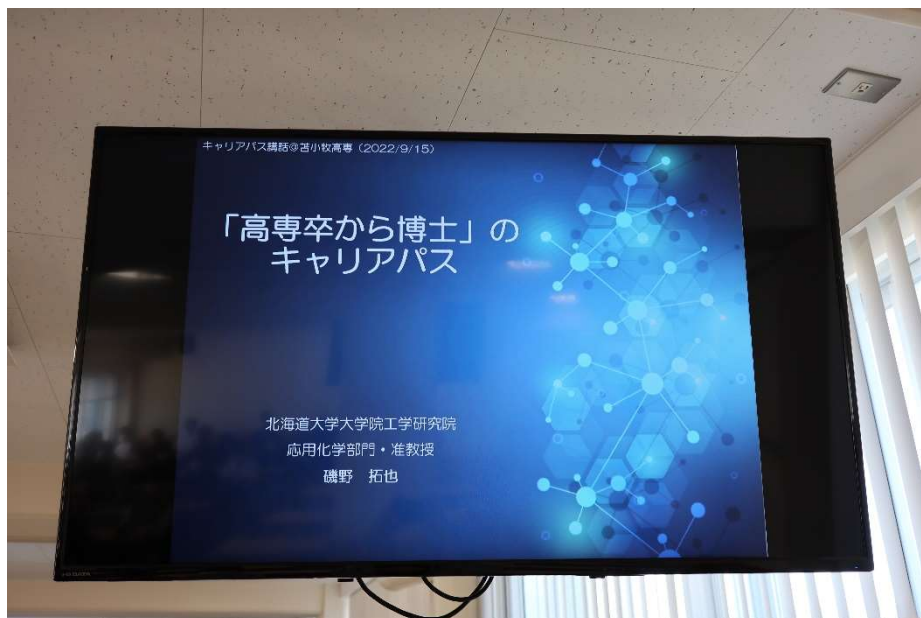


3階の大講義室は、改装されて収容人数が200名に増えました。

後ろの席でも、モニターが設置されているので、講師の資料をしっかりと見ることが出来ます。

授業の構成で学生が前半と後半に分かれており、講師は2回講演をします。

お一人目は清水先生よりご紹介いただいた物質工学科 10 期卒の磯野拓也さん。  
キャリアパス講演初の大学の先生です。



北大で准教授をされている磯野先生は、卒業研究を続けたいと思って専攻科へ進み、研究内容を学会で発表して賞を取り、北大の大学院進学の道を選びます。

さらに博士課程への進学を考えたときに、先生の親から食べていけるのかと心配されるエピソードが印象的でしたが、その後大学に残って研究の道へ進んだのです。



ゼミで学生を指導し、教鞭をとっているだけあってとても分かりやすく、丁寧に進学の大切さや博士をとることの意義をといてくれました。

研究室を紹介する動画も披露していました。

お二人目は機械工学科 36 期卒の小池美智男さん、同窓会の行事でよくお会いする方です。



小池さんは最初こそ寮生活でゲームばかりしている学生生活だったのですが、N 先生の PC のスクリーンセーバーにあった格言に感銘を受けたこともきっかけとなり大学へ進学します。



大学では、一見無理だと思ふことでもあきらめずに取り組んでいき、大学院(修士)へ進んで、大好きな車関係の会社へ就職します。

会社では、新しいラインを開発したり世界で一台しかない炉を共同開発したりと社長賞を3回受賞するという偉業を成し遂げるのです。

「ものづくり」に携わりたいという気持ちを今もしっかり持ち続けているのだと思います。炉の中に焼き付けするためのギアを入れる動画は圧巻でした。

終始気さくな雰囲気でお話を聞いて、途中で話したエピソードもしっかり最後に伏線として回収したところがお見事でした。

今年の講師はお二人とも大学や大学院に編入されています。

磯野先生が、工学部の大学院(修士)の編入率は9割ほどだと教えていました。研究室によっては、高専出身の学生や教員が多いので心配ないことも学生に伝えます。

何よりも世界と肩を並べて研究していくのならば、博士に進むべきだと教えていました。

世界中で開催される学会へ足を運ぶことで見聞を広められ、世界中のいろいろな食事を嗜むことが出来ることを、おいしそうな世界の料理の写真とともに学生に話していました。

小池さんは修士課程から就職と道を選びましたが、ものづくりや自動車関係の仕事に就きたい！という大きな目標だけではなく、都会では叶えることが難しい、一軒家で猫を飼って暮らしたいという現実的な夢も就職への後押しとなりました。

大学生活で学んだ、あきらめないで工夫して作り上げていく気持ちがあれば会社にとってなくてはならない人材となりうるのです。



毎年キャリアパス講演をみて思うことは、まだ系(学科)も決まっていない1年生にとって、卒業生である大先輩の社会人としての話はとても興味深い反面、全く未知の世界であろう自分の将来をどこまで想像できているのだろうかということです。

少なくとも学科の決まっていた1年生の自分を振り返った時には、学生生活になじむことで精一杯だった気がします。

キャリア教育を取り入れられたことで、自分の進路を決める時期が来たときにお二人のアドバイスが間違いなく役に立つことでしょう。

樽前会 工化22期 渡辺 郁子